

つきなみコミックスに見られる 同人誌出版のシステム

トルエンプロ

今日、アンダーグラウンドにおける、マンガその他の出版活動が盛んになってきている。

コミケットはいうまでもなく、各地で同人誌の即売会などが、盛んに行なわれてきており、それにしたがって、こういった同人誌の出版も、その数量、品質が向上している。

しかし、わがつきなみコミックスの出版形態は、いわゆる「同人誌出版」のシステムとは異なった形態をとっている。このシステムの紹介をすると共に、つきなみコミックスの略歴をのべ、その特徴を明らかにしていきたい。

出版プロセス

つきなみコミックスの出版物は、創刊第一号から、「コピーマシン」を使った印刷方法をとっている。この方法での利点は、

- 1) 出版サイクルが短い
- 2) ページ数が自由
- 3) 費用が安い
- 4) 締め切りが自由

などを上げる事が出来る。

一方、このようなシステムにも、それなりの欠点がある。欠点としては、

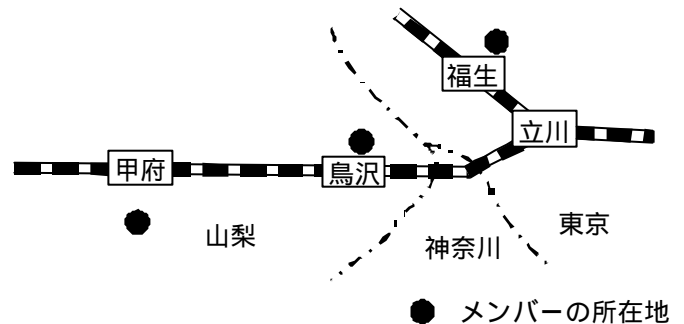
- 1) 製本作業に時間がかかる
- 2) 両面コピーは、歩留りが悪い
- 3) B6判以上の本は費用がかかる
- 4) エロなどのコピーはしにくい

などが上げられる。しかし、我々つきなみコミックスでは、同人誌の同人誌たるゆえん、つまり、限定された市場の中における出版というものを重視し、コピーマシンでの印刷を行なっている。

編集プロセス

つきなみコミックスの編集システムも、ほかの同人会の編集システムと異なっているところがある。わがつきなみコミックスは、3人のメンバーで構成されているが、このうち、ひとりが、「企画」「執筆」「編集」「印刷」「製本」を行ない、他の2名が、これらのサポート、監修、企画の補正、販売窓口などを行なっている。

というのも、わがつきなみコミックスのメンバーは、地理的にかなり離れた場所にすんでおり、全員が集まったの編集作業は不可能に近いためである。また、サークル内にコミックライターが一人しかいないのも、こういった編集形態になってしまう原因ではある。



これまでの出版物

これまでに、わがつきなみコミックスで出版された「この本」シリーズを、出版順にあげて見ると、

- | | |
|----------|-------------|
| 「この本一冊」 | '83/8/25 |
| | '84/1/10 改訂 |
| 「この本二冊め」 | '83/9/26 |
| 「この本三冊め」 | '83/12/13 |
| 「この本四冊め」 | '83/1/28 |

「この本五冊め」	'84/8/5 コミケ初参加
「NUMERIC」	'84/12/23 プリントゴッコ導入
「Chaos」	'85/8/11
「CHAOS2」	'85/12/29
「CHAOS3」	'86/8/10 ワープロ導入

このグラフに示されるとおり、プリントゴッコを導入し、表紙をカラー化したことが、販売数に反映してきたことが判る。また、24部という、売り上げを達成した、「CHAOS2」では、コミックスがミーハー的なダーティペアのレズ漫画だったことも、売り上げ数に貢献したと思われる。

これからの動向

我々つきなみコミックスの、これからの動きを予測するのは、現段階では非常に困難である。

しかし、自分達がやりたいことをやるという理念がある限り、なんらかの形でこういった同人活動が続けられると思われる。

以上、わがつきなみコミックスの、同人活動のついでの特徴をのべてきた。これを明らかにすることで、サークルのメンバーにとっても、今後の活動についての指針になると思われる。

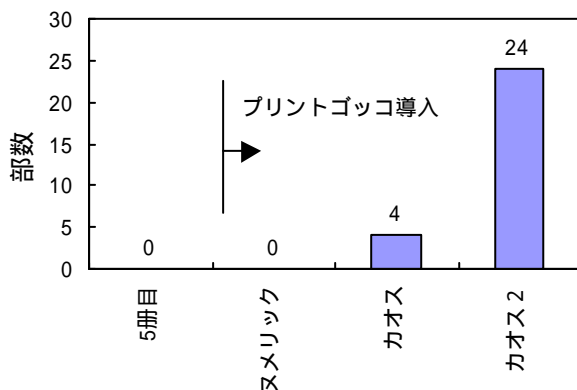
となっている。

そもそも、つきなみコミックスの出版理念は、「くだらないことを、全力で行なう」という所にある。このテーマに乗っ取り、各出版物では、それぞれ、その時にやりたかったくだらないことを特集しそれに乗っ取った紙面作りを行なって来た。ちなみに、今回の「CHAOS3」では、マッドサイエンスをテーマとしている。

これまでの販売実績

つきなみコミックスの本は、主にサークル内の二人のメンバーによって、友人、仲間内に販売されていた。しかし、5冊目からは、コミケットへ進出し、全国規模での少量販売を行なっている。

ここで、コミケットにおける、販売数の推移を図示してみる。



コミケットでの売上げ推移